



秩父市コミュニティ・スクールだより

No.7

「学校運営協議会」によって何が変わるのか？

コミュニティ・スクールの中核である「学校運営協議会」を設置することにより、何が変わっていくのでしょうか。学校応援団等を中心とした、地域連携活動にはどのような影響があるのでしょうか。

この問いに対して参考になるのは、平成 29 年度に秩父市教育委員会と尾田蒔小・中学校合同での先進校視察研修です。訪問した学校は埼玉県で 2 番目に、コミュニティ・スクールを設置した新座市立野火止小学校です。小学校の校長先生との質疑応答の中に、以下のようなやりとりがありました。

(質問)

学校運営協議会と学校応援団等の活動組織が、実際にどう関わって取り組んでいるのか。(どこで、どのように連絡・調整しているのか?)

(回答)

学校運営協議会がすべての活動を連絡・調整しているわけではない。それぞれの活動組織が独自に活動しているというイメージに近い。それでは、学校運営協議会がなくても同じように思えるが、もともと地域連携活動を行う組織や取組はコミュニティ・スクール導入前からあった。しかし導入前は、それぞれの活動組織が独自に活動しており、活動の内容は前年度の踏襲に陥りがちで、改善に結びつくことが少なかった。

コミュニティ・スクール導入によって、学校運営協議会を中心に各活動組織が目標を共有し、**PDCA サイクル**に基づく活動が行われるようになった。このことにより各活動の視点が明確になり、活動の改善につながるようになった。また、学校全体としてより統一的に活動できるようになった。

このことがコミュニティ・スクールのもっとも大きな利点である。

この「たより」は秩父市の皆様に、「コミュニティ・スクール」を知ってもらうためのものです。

従来の地域連携活動は、各活動組織間の調整が不十分であったり、活動の内容も前年度の踏襲になりがちでした。地域連携活動をより発展させるために、学校が、地域と学校教育目標を共有し組織的・継続的な取組を行えば、大きな成果が期待できます。コミュニティ・スクールはそのためのしくみです。

コミュニティ・スクールは「地域とともにある学校」づくりを推進します。

学校運営協議会は、コミュニティ・スクールに関わる活動の中核となって、**PDCA サイクル**に則って、課題を共有し、各活動組織の連携を図ります。また評価を行い、次年度の改善に役立てます。

地域連携活動は、「地域学校協働活動」と名称を改め、学校と地域が一体となった取組を全国的に進めようとしています。

PDCA サイクルとは？

PDCA サイクルとは、Plan(計画)・Do(実行)・Check(評価)・Action(改善)を繰り返すことによって、生産管理や品質管理などの管理業務を継続的に改善していく手法のことです。現在では、教育や医療など様々な分野に取り入れられています。



学校運営協議会で実際に行う場合

- | | | | |
|---|-------|--------------|----------|
| P | プラン | 学校運営の基本方針の承認 | 熟議 |
| D | ドゥ | 学校支援活動 | 学校行事への協力 |
| C | チェック | 評価 | 振り返り |
| A | アクション | 成果と課題 | |

学校運営協議会の開催数は限られています。この中で上記の活動を効果的に行うためには、お互いの活動を知ることが必要です。この点に関して、学校運営協議会のもっとも大切な役割は、各活動組織の相互理解を深め、役割を明確にすることです。

そのために、各活動組織の代表者が参加して報告を行うなどの工夫が求められます。学校独自の取組がもっとも生きてくるところです。

秩父市教育委員会学校教育課

電話 0494-25-5228 ホームページ <http://www.city.chichibu.lg.jp/1900.html>